

シラチャ校だより

泰日協会学校シラチャ校
2023. 12. 22



学びの場と教材の宝庫を教育にどう生かしていくか

シラチャ日本人学校 校長 藤枝茂雄

今年度も早いものでもう2学期末を迎えようとしている。日本であれば雪が降ったりして、それなりに年末の季節感があるのだが、いまだに海水浴ができるタイではそうした実感が湧きにくい。ただ、日ごとに悪化する大気汚染に関する数値が、この時期のタイを象徴しているのかもしれない。

1 「タイらしさ」を教材としている校外学習の目的地

さて、二学期は第6学年の修学旅行をはじめ、各学年で多くの校外学習を実施した。また、三学期早々には2泊3日での中学部第8学年の古都チェンマイをはじめとした北部地域への修学旅行も行う予定である。実際にこれらの活動の計画を検討したり、引率したりして感じることは、タイという国は生きた教材の宝庫であるということだ。

中学部の修学旅行の保護者説明会の中で、担当教員から、「自分が勤めていた国内の高校では、質の高い学びの要素が多い海外研修に多くの生徒が応募するが、定員があるため僅かな生徒しか参加できない。そのような場所をシラチャ校の中学部2年生全員が修学旅行として訪れることができる…」という趣旨の説明があったが、まさにその通りだろう。

シラチャ校で現在実施している以下の校外学習の場は、とりわけタイらしいものといえる。

小学部第4学年の子どもたちは、学校からバスで一時間程度のパナットニコムという町に、伝統工芸の竹細工を学ぶための校外学習に出向く。ここは、アヘンの原料となるけし栽培に依存した経済からの脱却を図るために、竹細工を中心とした一村一品運動を盛んにすることで地域の安定的な振興を図ってきた地域である。

小学部第5学年の子どもたちは、シラチャから南へバスで約2時間半の所にあるジャンタブリの海岸を訪れ、臨海学校のプログラムをこなす。プログラムの中心にあるのは、今日の日本ではあまり行われなくなった「500m遠泳」である。子どもたちが12月まで日本人学校でのプールの授業を受けることができるという気候的な面も大きいですが、乾季になってモンスーン（季節風）が北東風に変わり、雨季とは打って変わってシラチャを含むタイランド湾東岸の海がきわめて穏やかになるという自然の恵みのおかげもある。

第6学年の修学旅行の訪問先は歴史的にも興味深い。タイにある7つの世界遺産の代表格であるアユタヤ遺跡をはじめ、第二次世界大戦中にタイに進駐した日本軍が建設した泰緬鉄道など、歴史、平和、文化のどの領域からでも学習に取り組める場所が存在している。

中学部第2学年では、タイ北部の古都チェンマイやチェンライ方面を修学旅行の目的地として、山岳民族の自立と福祉、民族衣装、アヘン栽培などのテーマでの学習を行う。これらは、一学期から実施してきた日本とタイとの模擬アンテナショップ出店構想を通じて国際理解を進めるといった個別の探究学習に関する現地調査も兼ねた活動の一つとして位置付けられている。

また、シラチャ日本人学校が作られた背景には、EECと呼ばれる東部経済回廊の整備による日系企業の進出がある。そのためタイ最大の国際貿易港であるレムチャバン港やその周辺に立地する日系企業の工場の見学などの機会もある。それぞれの場所をどのように教材化していくか、それをどの教科として、あるいは総合的な学習の時間の単元として位置付けるかについては、各学年の教員が毎年協議し、改善し、子どもたちの教育活動に生かしている。

シラチャ校が2009年に開校して以来、それぞれの期間に勤めた教員が、現地に詳しい二オンディレクターの助言も踏まえながら、子どもたちに日本国内以上の学習成果を獲得させるために、校外学習の目的地をゼロから「開拓」してきた努力には心から敬意を表したいと思う。

2 今後、校外学習を充実させていくための着眼点

これまで述べてきたように、校外学習の目的地の充実は年々図られている。一方で、かつては実施していたが現在は行われていない活動の中に、是非復活させたいものもある。それは、マングローブの植樹などの活動を含むタイの自然の海岸の保全など、環境教育の分野での校外学習である。

海辺の町シラチャに住んでいると必然的にタイの海岸の様子を見る機会が多くなるが、日本で高度成長期以降に顕在化した数々の環境問題をタイが「後追い」していると感じることがしばしばある。それを三つあげるとしたならば、第一は、「多くの自然海岸や田んぼがエビの養殖池としての利用のために失われていること」、第二は、「目の小さな底引き網を使って底生生物や稚魚までも根こそぎ捕獲するような漁が行われていること」、第三は、「海底の磯焼け（海藻林の消滅）が激しく進んでいること」である。

自然海岸の干潟は埋め立てがしやすく工業用地としては好適であるが、生物にとっては、エビやカニなどの甲殻類や稚魚や稚貝が育つ大切な場所である、また、藻場は魚の産卵場所であり「食料庫」でもある。そのような場所が一度失われると回復は極めて難しく、食物連鎖などに大きな影響が出て、やがては海の資源全体が激減するという結果が待っている。

産業面からみると、エビの養殖はタイの第一次産業の中でも主力部門とも言えるものであり、単位当たりの収益率は稲作の水田の数十倍にもなるという実態を考えると、今後も乱開発は続くだろう。エビの病気を防ぐための抗生物質の集中投与による土壌汚染も懸念される。

また、タイランド湾東岸のパタヤからラヨン周辺で素潜りやダイビングをしたことがある人は、岩に海藻がほとんど付いていなくて、海藻を貪欲に食べるガンガゼと呼ばれる棘の長い大型ウニが大量にいたことを思い出すのではないだろうか。これがまさに「磯焼け」の姿であり、海底の砂漠化である（右写真）。



身近にあるこのような環境破壊の進行の実態に子どもたちが気付く機会は少ないのが現状である。今後、シラチャ校の教育課程を考える上で、日本とタイとの共通点が非常に多く、我が国の食の問題にも大きく関係している「タイランド湾を中心としたタイ沿岸部の環境問題についての学習」を充実させる機会を設けていきたいと考えている。

この記事を読んだ児童生徒の皆さんには、冬休みの期間を利用して新たな目線でタイの海を観察してほしいと願っている。

それでは、皆様、よい新年をお迎えください。

6年生修学旅行

繋ぎ ~Keep history in my mind~

第6学年主任 木村 久美子

11月1日～3日、アユタヤ・カンチャナブリ方面への修学旅行を実施しました。標題は、修学旅行のスローガンです。学年目標の「繋ぐ」、タイや友達の魅力を発見し惹かれる、歴史に触れ胸に刻む、といった思いから、実行委員を中心に考えたものです。



6年生では、10月に行われたシラチャ祭や修学旅行に向けて、文化・歴史・戦争・平和などについて、多面的・多角的に捉え、自分の考えを深められるよう総合学習に取り組んできました。また、修学旅行の事前学習として、西南学院大学の片山教授にオンライン授業をしていただき、泰緬鉄道建設を中心とした太平洋戦争についての歴史について学習しました。



日本人村の見学では、これまで自分たちが学習してきたことが資料館に展示されていることに感動したり、新たな発見に更なる学習意欲が掻き立てられたりしていました。アユタヤ遺跡では、頭のない仏像や崩れた仏塔など侵略された傷跡を見て、美しさだけではない繁栄の後の悲しい歴史に思いを馳せました。カンチャナブリでは、アルヒル栈橋を散策したり、戦争博物館見学、平和セレモニーを行ったりしました。過酷な環境で働かされ命を落とした方々の冥福を祈り、平和への願いを込めて「いのちの歌」を歌いました。

「修学旅行は楽しかった。けれど、平和についての考えが変わった貴重な3日間だった。」現地を訪れ、見て、感じて、さらに発見できたことで、子どもたちにとってはまた一歩成長した修学旅行となりました。

中学部交流会

We can find ~交流会で見つけたもの~

中学部主任 村山 祐亮

4年ぶりに対面で開催された中学部の交流会は、スカボット校で行われました。開会式では、タイ語、流暢な日本語、英語の3カ国語で司会を行った相手校の生徒が特に印象的でした。参加者は8つのグループに分かれ、食文化、サブカルチャー、伝統的な遊び、日本のマナーなどをタイ語や英語で紹介し合いました。スカボット校の提案により、日本では体験できないタイの伝統デザート作り、ゴム遊び、タイ衣装の着付け、伝統楽器体験などの貴重な活動が実施されました。午後はタイダンスやスーパーマンリレーも行われ、終始笑顔が絶えない一日となりました。事前に Padlet という情報共有プラットフォームを用いて、動画や写真で活動の概要を紹介し、自己紹介を行ったことが、当日の内容をより充実させました。生徒の振り返りでは、「言語の壁を越えることの楽しさ」と「異文化体験の素晴らしさ、コミュニケーションの重要性」を感じた様子が多く見られました。お互いが用意した活動は、普段日本の学校では直面しない「乗り越えたい壁」を生み出しました。そして、今回のシラチャ校の交流会スローガン「We can find」にある通り、それぞれがその「壁」を越える方法を見出しました。活動中に見た多くの笑顔は、言語と文化を越えた交流の大切さを教えてくれました。この交流会を通じて得た経験を忘れず、世界で活躍する人材へと成長することを願っています。



ロイクラトン



タイのロイクラトン祭りは、別名「水の祭典」とも呼ばれています。

古くからタイに伝わる風習がそのままお祭りとなったイベントで、

タイの一部都市ではなく、全国各地で毎年11月にかけて行われます。



「クラトン」とは灯籠のこと、そして「ロイ」とは川に流すことを意味します。

川の女神であるプラ・メー・コンカーに、感謝の気持ちを伝えるために

ろうソクに火を灯した灯籠を川に流すのです。

祭りの形式はその土地によって異なりますが、花火が打ち上げられる地域も

あり、友達や家族みんなで楽しめるイベントとして地元の人にも親しまれて

います。

文責： タイ語教諭 ニシャーパシャルワイ



1月の行事予定

3学期始業式

8日(月)は、3学期の始業の日となります。始業式がありますので、児童の皆さんは袖付き、襟ありの服装で登校してください。また、この日は全校5時間授業となります。お弁当も必要ですので忘れずに持ってきて下さい。他にも、各学年・学級から出ているお便りをもとに、準備をお願いします。

日 曜	児童・生徒の予定	バス時刻
1日(月)	元日	
2日(火)	年始休業	
3日(水)	年始休業	
4日(木)		
5日(金)		
6日(土)		
7日(日)		
8日(月)	3学期始業式 全校5時間授業 購買(注文票配布日)	14:20 P1-6 M1-3
9日(火)	購買(注文票提出日)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
10日(水)	8年修学旅行	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
11日(木)	8年修学旅行	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
12日(金)	8年修学旅行【小:学級だより】	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
13日(土)		
14日(日)		
15日(月)	小委員会 放課後指導3年	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
16日(火)	7,8年実力テスト 中委員会 放課後指導1年	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
17日(水)	避難訓練(地震)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
18日(木)	7年レムチャバン 放課後指導2年	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
19日(金)		14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
20日(土)		
21日(日)		
22日(月)	小クラブ 放課後指導3年	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
23日(火)	中入学説明会(6年児童対象) 3年ロッテ工場 放課後指導1年	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
24日(水)	購買(注文票配布日) 全校縦割り班(弁当&遊び)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
25日(木)	購買(注文票提出日) 放課後指導2年	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
26日(金)	音楽集会 アクティブタイム【小:学級だより】【中:学級だより】	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
27日(土)		
28日(日)		
29日(月)	3学期水泳指導開始 放課後指導3年	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
30日(火)	学級懇談会(7,8,9年) シラチャ作品展 放課後指導1年	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
31日(水)	学級懇談会(3,6年)【学年だより】【学校だより】	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3

★は特別バスです。通常の下校バスと時刻が違うときについています。

8年 修学旅行

10日(水)から2泊3日の日程で、8年生がチェンマイ・チェンライに修学旅行に行きます。学級での事前学習や準備をしっかりとし、最高の修学旅行を目指しましょう。

7年 校外学習

18日(木)は、7年の総合的な学習の時間で、レムチャバン港へ行きます。世界でも有数の国際貿易港であるレムチャバン港ですが、自動車運搬専用の大型船を見学したり、レムチャバン港の歴史や貿易に関するお話を聞いたりします。「タイや日本の社会をよりよくするための『なにか』づくり」のヒントを見つけられるように頑張りましょう。

避難訓練【地震】

第1学期には不審者侵入時の避難訓練を、第2学期には火災発生時の避難訓練を行いました。そして、第3学期には1月17日(水)に地震発生時の避難訓練を予定しています。これらの訓練は、生徒の皆さんの命を守るための重要な学習です。この機会に、安全について一緒に真剣に考えましょう。

小3 校外学習

小学部3年生の社会科の授業では、23日(火)にロッテ工場の見学を予定しています。この見学では、工場で働く人々の工夫に注目し、実際の製造プロセスを学びます。この貴重な体験を通じて、社会での働き方を深く理解し、今後の学びに活かしていきましょう。

中学部入学説明会

23日(火)は、小6児童対象の中学部入学説明会を予定しています。小学校と中学校の違いや、生活や学習に関することなど、中学部の先生から直接お話を聞きます。なお、保護者の皆様にはクラスルーム上の資料にてお知らせしますので、併せてご確認をお願いします。

引っ越しをされた場合

担任へ Google 連絡帳等でご一報ください。また、電話番号が変わられた場合も同様をお願いします。緊急時のご連絡先(SMS含む)の把握にも必要となります。

来年度の始業式と入学式

始業式・・・2023年4月18日(木)
入学式・・・2023年4月20日(土)

学級懇談会とシラチャ作品展

30日(火)から、各学年、学年末の学級懇談会を開催させていただきます。この1年間の児童生徒の成長の過程や学級の様子の変化、今後の進路等についてお話をさせていただきます。また、懇談会に合わせて「シラチャ作品展」を開催させていただきます。図工や美術、技術、家庭科で子どもたちが一生懸命に作成した作品を、来校いただいた際ご覧ください。なお、ホールは上履き等が必要になりますので、お忘れなくご持参ください。

イムワーンの写真撮影について

1月8日(月)の始業式後にイムワーンに掲載する全校写真を撮影します。欠席者は載せられませんのでご了承ください。